

序 本稿の目的と構成

0.1 目的

わが国の伝統的な木造住宅は、柱・梁などによって構成される軸組構法を基本とし、和室、縁側、真壁、土壁といった、地域の気候・風土・文化に根ざした空間・意匠、構法・材料などの、住まいづくりの知恵がふんだんに盛り込まれています。こうした住宅には、例えば、大きな開口部を確保して通風・採光に利用する、勾配屋根や軒・庇により降雨や日射遮蔽への対策を講じるなど、現代の住宅にも適用しうる環境親和型の技術が用いられており、電力をはじめとするエネルギー需要の抑制が課題となっている昨今においては、一層再評価されるべきものと考えられます。

また、伝統的な木造住宅には、様々な機能や用途に使える部屋や空間が設えられ、多様な生活の器として機能していました。例えば、土間は農機具や漁具を手入れする作業場として、また、座敷は客を迎え入れる部屋として使われていました。また、畳の間は色々な用途に転用が可能です。

こうしたかつての住まいの多面的な機能は、当時の社会生産体制を背景に形成されていたと言えるものの、住生活の多様さを許容し豊かさを創出していた面もあったと想像されます。それに対して現代の多くの住宅では、かつての住宅内にあった機能の多くが外部化し、主に食事や就寝などの基本的な生活行為を行うための場で構成され、それ以外の用途には利用しにくくなっています。

平成24年に内閣府が実施した世論調査（国民

生活に関する世論調査（平成24年6月）では、「今後の生活において心の豊かさに重きをおきたい」と回答した人の割合が全体の64%であり、上昇傾向にあることが確認されました。現代において住生活をより豊かにしたいとする指向は増えていると考えられ、それを実践する上で、かつての住まいの構成や設えから学ぶべき知見は多くあるものと考えられます。

本稿では、こうしたことを背景に、かつての日本の住まいに取り入れられていた手法・技法や営まれていた住まい方を再確認し、現代における住まいづくりに参考になる考え方や技術的な内容を整理し紹介します。それらを現代において活用するためには、従来の手法・技法を現代の住まい手の指向、流通材料、生産体制、法令、コストなどの諸条件に見合うように、改変して取り入れる知恵や工夫も必要となります。そのため、本稿では、最近建設された住宅や現代の生産者の動向にも着目し、かつての住まいにみられた手法・技法を採用する方法、また、採用を可能にするための前提条件などについても示しています。

かつての日本の住まいには、住まいを長寿命で心地よくしようとする工夫、多様な住まい方を許容し豊かなものにしようとする工夫が見られます。それらを現代の住宅づくりにおける条件下で活用する試みを「日本の住まいの知恵」と称して、本稿はその実践に向けた情報を提供します。

伝統的な木造住宅にみられる要素の例



勾配屋根・瓦屋根（富山）



深い軒・縁側・すだれ・掃き出し窓（熊本）



和室・続き間・襖・障子（山形）



防風林・瓦屋根（鹿児島）

0.2 本書が対象としている住宅

わが国は、地域によって気候、歴史・文化や産業構造などの特性が異なります。

そのため、伝統的な住宅では地域ごとに特徴のある形式・形態や材料・構法が使われ、各地で特色のある住宅がつくられてきました。例えば、寒冷地や蒸暑地では温暖地に比べて、寒さや蒸し暑さに対処する工夫が手厚く講じられています。

本稿では、こうした各地で用いられ継承されてきた要素を取り上げています。

また、現代においては一戸建て住宅以外に、とくに都市圏ではマンションなどの需要も高いことから、一戸建て住宅に適用できるものに限定せず、集合住宅に適用しうる要素も取り上げています。

このように本稿では、特定の地域や住宅の建て方に限定しないで、できるだけ幅広く住まいづくりに関する諸要素を取り上げ紹介します。ただし、要素のなかには地域の実情や建て方に応じて選択が必要になるものもあります。

利用方法

本稿は、これから住宅の新築、購入や改修を検討しようとする一般のユーザーの方の参考書として、あるいは、工務店や住宅メーカー、素材生産者などの住宅生産に関わる事業者のユーザーへの情報発信ツールやユーザーとの情報共有ツールとして、利用していただくことを目指しました。

そのため、日本の伝統に根ざした住まいづくりの手法・技法とそれを用いた住まい方の事例を中心に構成し、具体的で分かり易い内容とすることにつとめました。事例は、伝統的な木造住宅だけでなく、現代の住宅において工夫して用いられているものも含めて、できるだけ幅広く集めています。

構成

1章 日本の住まいの知恵とは

「自然環境」「社会的環境」「家族」の3つを住まいづくりで重視すべき立脚点として位置づけ、それらに対応して「住まいづくりの目的」（与条件）を設定しています。また、目的を達成するための手法・技法などを「日本の住まいの要素」として整理しています。

2章 住まいづくりの目的と対応のしかた

住まいづくりの目的として、「人と人との関係」

「暮らしの楽しみ」「環境へのやさしさ」「建物の保護」の大きく4つを設定しています。これらの目的を達成するための住まいづくりの配慮点について、関連する要素の事例やその効果などを含めて解説します。

3章 日本の住まいの要素

日本の住まいの要素を36種類取り上げ、それぞれについて、採用のメリットや採用する上での留意点などを、事例を交えて解説します。